

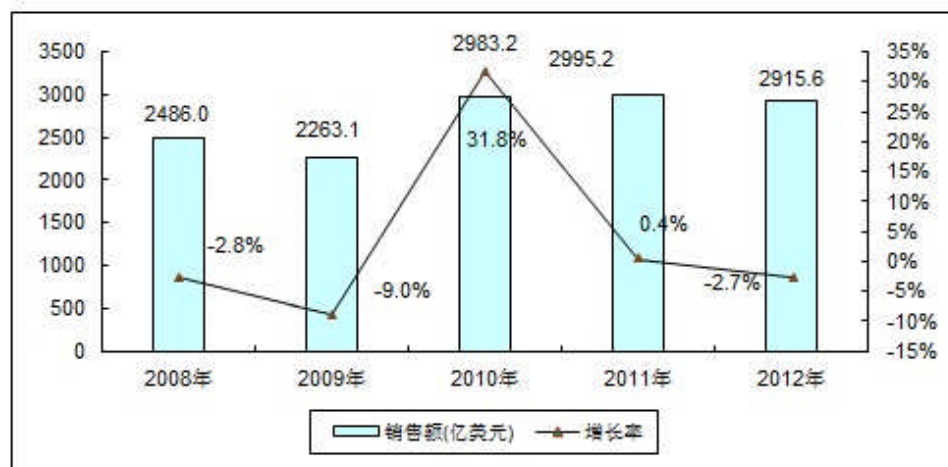
2012年中国IC市場は変動の逆風の中で成長

2013年3月28日、中国半導体業界協会主催で、CCID(賽迪顧問)が運営を代行した「2013年度中国半導体市場年次総会及び第二次IC産業イノベーション大会」が西安で会期通り開催された。この年次総会は既に連続9回に行われており、ここで発せられる情報がその年の中国半導体市場の動向を判断する重要な拠りどころの一つとなっている。

全世界の半導体市場は未だ低迷、通年では再びマイナス成長

2008年の世界的な金融危機以来、グローバル経済が絶えずリスクをはらんだ暗い影に覆われている。2010年世界の半導体市場は力強く反発したが、一時的なものに過ぎなかった。2011年世界の半導体市場は同期比で成長率0.4%に落ちている。2012年の市況を振り返ると、世界的なマクロ経済の趨勢は未だ暗中模索の状態にあり、ヨーロッパの国々はいずれも欧州債務危機から抜け出せておらず、アメリカの経済刺激対策も明らかな効果が見えていない。アジア地区の成長率も全体的に鈍化している。マクロ経済の不況が長引いていることで、エレクトロニクス製品の消費や買換えの速度に直接的な影響が出ている。2012年上半期の世界の半導体市場の落ち込みは明白で、同期比で5.1%下落している。予期の季節的な繁忙期の到来により全般的に売上が持ち上がり、下半期の世界半導体市場は回復をみせたものの、かつての同時期のレベルと比べると、市場の様相は繁忙期のそれとはいえない。全体的には、2012年世界の半導体市場は再びマイナス成長となり、市場規模は2915.6億米ドルまで下落、市場成長率も同期比で2.7%減となっている。なかでもICの市場規模は2380.4億米ドルに落ち込み、市場成長率も同期比で3.7%減、半導体全体の市場成長率より更に1ポイント低くなっている。

图1 2008—2012年全球半导体市场规模与增长



数据来源: SIA 赛迪顾问整理 2013, 02

中国 IC 市場は逆風ながら成長

世界的な経済不況が長引くなかで、中国のエレクトロニクス製品の輸出も明らかに抑制されており、IC 用途の主流であるエレクトロニクス製品完成品の輸出が失速している。中国国内ではモバイルデバイス・スマートデバイスが好調なのを除き、その他製品の市場の多くが安定しながらも下降気味といえる。国内外の様々な要素の制約を受け、2012 年中国 IC 市場の売上は、2011 年のベースから更に伸び幅が縮まり、市場規模は 8558.6 億元と増えたが、市場成長率は更に落ちて 6.1%、但しそれでも世界市場の成長率を大幅に上回っている。

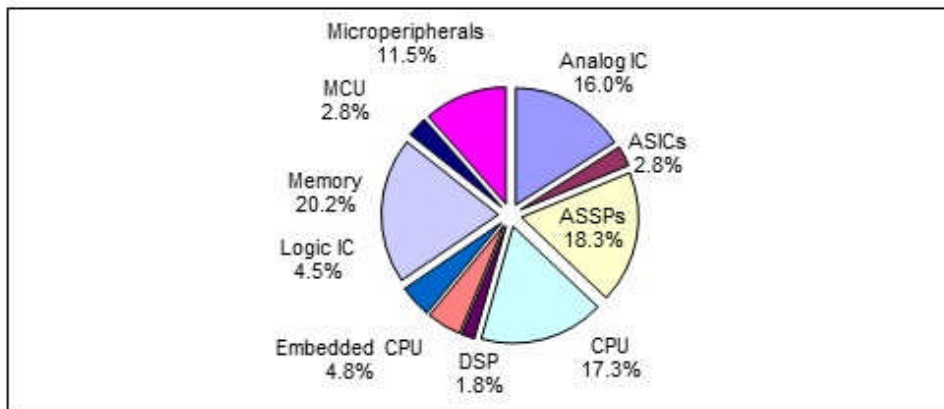
図2 2008－2012年中国IC市場販売額規模及び成長率



データ出所: CCID2013年2月

製品構成では、記憶装置が依然最大のシェアを占める製品となっているが、2012年のシェアは 20.2%で、2011年と比べると1.2ポイント近く下がってきている。その原因を探ると、2012年DRAM製品のかつてない価格変動の後、台湾系の製造工場が次々この分野から撤退し、その他メーカーも生産能力の調整を行っていることにある。製品価格の下落は徐々に落ち着きを取り戻したものの、PC市場での販売量の失速は収まらず、CPU製品もPC市場の成長鈍化に伴いそのシェアを落としている。また、好調といえるNAND型フラッシュメモリ市場に対しても、各大手メーカーが次々とその生産能力の配備を整えてきており、製品の競争は熾烈で、市場が揺れるなか平均価格もやや下降気味となっている。この他では、ASSPsによる各種の高度な専用ICチップが登場し、とりわけモバイルデバイス・スマートデバイスの急速な成長によって、市場は10%を超える成長を維持し、市場シェアも増やしている。

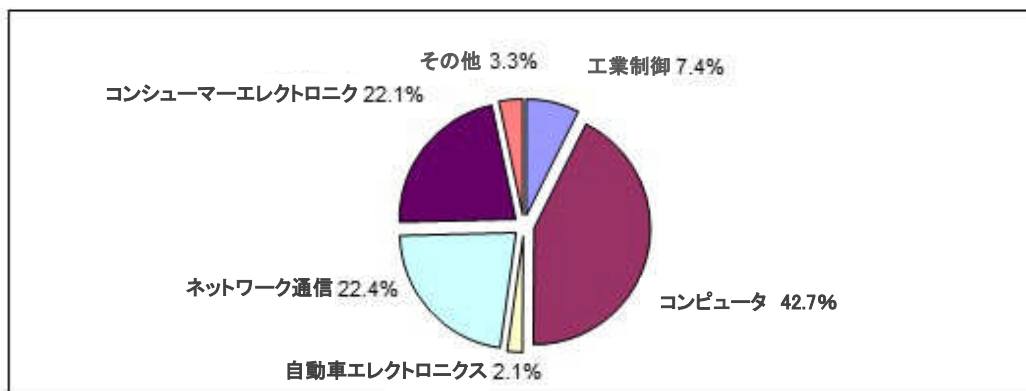
図3 2012年中国IC市場製品構成



データ出所: CCID2013年2月

ICの用途別構成では、コンピュータ、通信、コンシューマーエレクトロニクスが依然として中国での主要な市場となっており、この3つで市場全体の87.2%を占める。成長スピードから見ると、モバイルデバイス・スマートデバイス用のモバイルアプリ、タッチパネル制御チップ、ベースバンド、無線周波数などネットワーク通信関連のICのニーズが増え、これによりネットワーク通信分野が2012年度中国IC市場の成長を牽引した最大のセグメントとなっている。一方、世界のコンピュータ販売台数の減少が中国のコンピュータ分野のIC市場を失速させる直接的な原因となっており、2012年同分野のIC市場におけるシェアは更に落ち込んで42.7%となり、その市場成長率も僅か1.2%である。

図4 2012年中国IC市場用途別構成

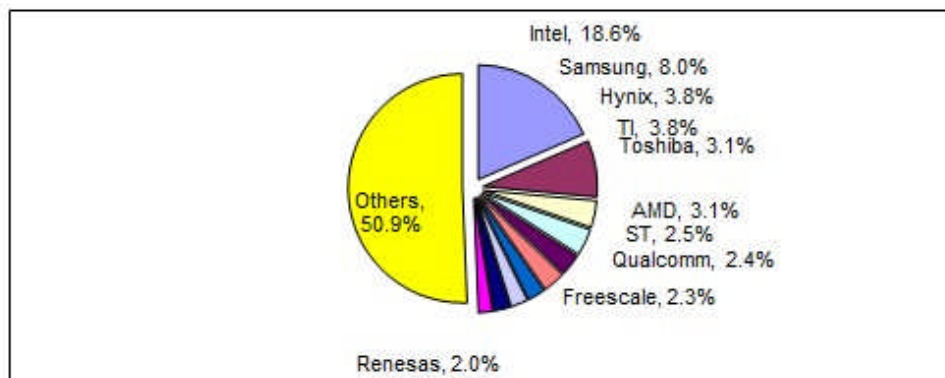


データ出所: CCID2013年2月

競争状況においては、中国IC市場のトップ4企業が既存の販売規模による恩恵を受け、その市場での順位にも変化はないが、伸長率に関してはバラつきが出ている。インテルはコンピュータ市

場の影響を受け、シェアを18.6%まで落とし、売上の伸びも僅か2.8%である。業態が類似するAMDの業績も大きな影響を受けており、売上は6.7%減、これにより市場での順位も1つ落としている。これに対して、サムソンはほぼ完備された縦型産業チェーンを活用して売上規模を11.7%増まで持ち直し、市場の巨頭との距離を更に縮めている。そして今年最大の勝者であるクアルコムは、スマートフォンの急速な成長に後押しされ、その売上実績を一挙に36.2%増とし、市場での位置も10位から8位に上げている。

図5 2012年中国IC市場ブランド構成

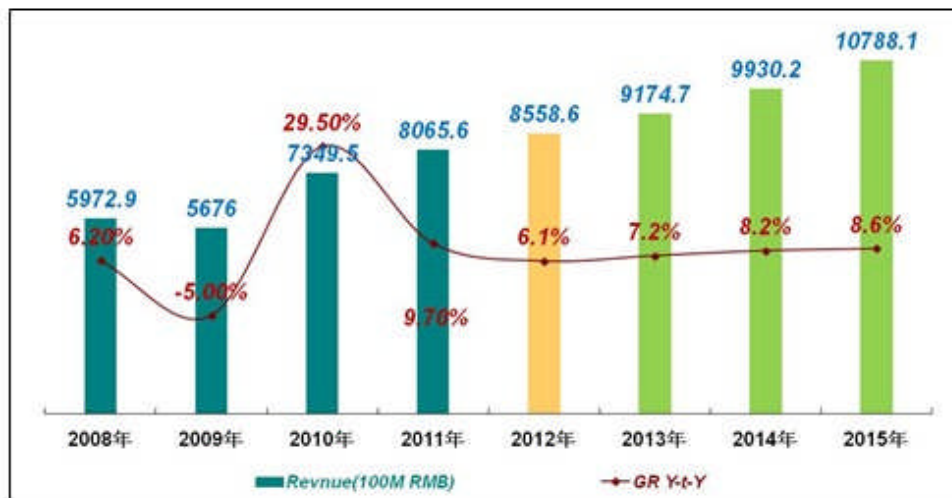


データ出所: CCID2013年2月

中国 IC 市場の発展動向の分析

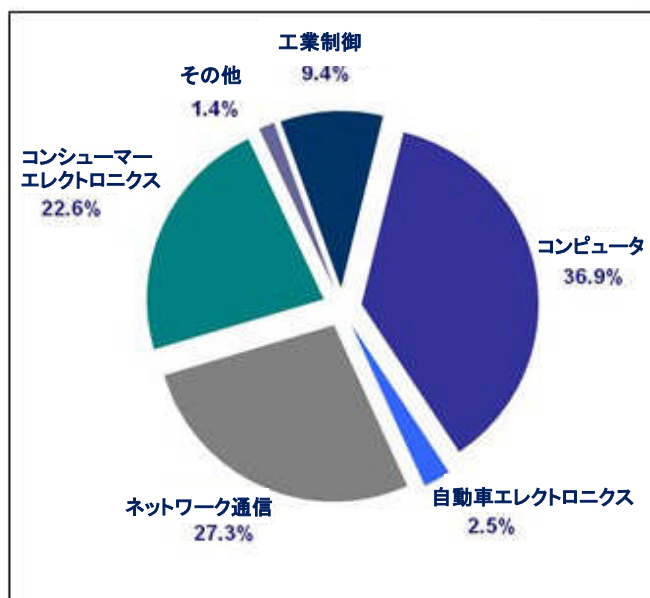
今後は、グローバル経済の好転に伴い、輸出主体の中国のエレクトロニクス製品完成品の需要も高まると期待されており、各OEMメーカーは購買を加速し、IC製品の在庫も補充されるだろう。モバイルデバイスやスマートデバイス、スマートフォンに代表されるモバイルインターネット用の機器はなおも急成長を維持し、PC分野での市場規模は徐々に縮小され、このことが直接的に記憶装置市場とCPU市場の発展に影響するだろう。自動車エレクトロニクスは1人当たりの平均自動車保有台数が上がってくるのに伴い、市場が徐々に成長することが見込まれている。工業制御とネットワーク通信が依然として将来的な市場の成長点となる。この他、ICカード関連の市場では、各大手銀行の受理環境の改善、カード発行、業界アプリケーション、POS、ATMの改善などの作業が相次いで完了し、2013年には金融ICカード発行と切替え作業が全面的に急速な発展の段階に入り、後続の展望も約束されている。さらに医療エレクトロニクス、セキュリティ関連エレクトロニクス等の各業界での情報化推進が深まるにつれ、これらの業界で用いられるIC製品の市場シェアも徐々に増えて来るだろう。総体的にみて、安定的に小幅ながらも伸長というのが今後何年かの中国IC市場の動向だといえる。

図6 2008－2015年中国IC市場規模と成長



データ出所: CCID2013年2月

図7 2015年中国IC市場用途別構成と成長



データ出所: CCID2013年2月